

## 第21回「県内企業景気動向調査」結果 (平成21年11月調査)

### 【要旨】

- ◆ 県内企業の業況は、自社の業況判断を示すD I 値（「自社の業況」D I 値）でみて、前年同期比、前期比ともに「悪い」超。「自社の業況」D I 値（前年同期比）は▲29.2となっており、前回調査時点（平成21年8月）と比べて15.8ポイント改善したが、依然低い水準で推移している。
- ◆ 業種別では、全てのD I 値（前年同期比）が改善した。建設業では2期連続の回復。また、県内各地の景気動向は、「自社の業況」D I 値（前年同期比）が最上以外の地域で引き続き「悪い」超。但し村山北部のみ前回調査時点と比べてD I 値が低下したが、その他の地域ではD I 値が回復した。特に最上地区では建設業が牽引する結果となった。
- ◆ 業況の先行き見通しは、自社の業況D I 値が▲33.7と再び悪化し、先行き不安感が継続しており、二番底に落ち入る可能性も出てきた。特に建設業の悪化見通しが著しい。
- ◆ なお、調査の概要は次の通り。  
アンケート：平成21年11月2日（月）～13日（金）、507社（有効回答率57.8%）  
ヒアリング：平成21年12月11日（金）～18日（金）、16社

平成21年12月

株式会社荘銀総合研究所

## 目次

1. 本県の景気動向 .....	1
(1) 概況 .....	1
(2) 業種別の業況 .....	2
① 建設業 .....	2
② 製造業 .....	4
③ 卸・小売業 .....	6
④ サービス業 .....	8
2. 各地の概況 .....	10
(1) 各地の景気動向 .....	10
(2) 現状判断の動向 .....	11
① 村山南部 .....	11
② 村山北部 .....	11
③ 最上 .....	11
④ 置賜 .....	12
⑤ 庄内田川 .....	12
⑥ 庄内飽海 .....	12
(3) 現状判断の長期推移 .....	13
① 自社の業況 .....	13
② 売上高 .....	13
③ 営業利益 .....	13
④ 人員・人手 .....	14
⑤ 資金繰り .....	14
3. 景気の天気図 .....	15
4. 特別調査：冬季ボーナスの支給動向について .....	16
<参考資料Ⅰ：地域別・業種別回答率> .....	18
<参考資料Ⅱ：基調判断用語の凡例> .....	19
<参考資料Ⅲ：調査の概要> .....	20

## 1. 本県の景気動向

### (1) 概況

#### 現状判断：低い水準で推移している。

県内企業の業況は、自社の業況判断を示すDI値（「自社の業況」DI値）は▲29.2となっており、前回調査時点（平成21年8月）と比べて15.8ポイント改善したがプラスに転じるまでには至らず、依然業況は低い水準で推移している。

業種別では、全てのDI値が改善した。建設業では3期連続の回復を果たし、政策による効果が明確に表れてきている。また一部の製造業（自動車部品）ではエコカー関連での需要により業況が回復した先も見受けられた。

地域別では最上以外の地域で「悪い」超。但し村山北部のみ前回調査時点と比べてDI値が低下したが、その他の地域ではDI値が回復している。特に最上地区では建設業が牽引し30.9ポイント回復した。

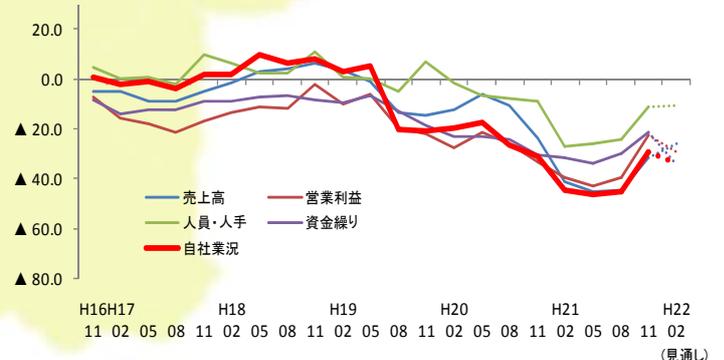
#### 先行き見通し：先行き不安感が継続している。

業況の先行き見通しは、自社の業況DI値が▲33.7と再び悪化する数値となっている。先行き不安感が継続しており、二番底に落ち入る可能性も出てきた。特に建設業の業況悪化が著しく、今期は公共工事の前倒しによる発注が多くみられた分、来期はその反動が大きいとの見通し。政権が交代したことも相まって各社とも来期の見通しが立てづらい状態にあり、大きな設備投資や人員増強は考えていない様子である。

図表1-1 現状判断と先行き見通し(各DI値の動向)

(前年同期比) (調査時点)	自社業況		売上高	営業利益	人員 人手	資金 繰り
	(前期比)	(前期比)				
H 21.08	▲ 45.0	(▲ 30.2)	▲ 44.5	▲ 39.4	▲ 24.0	▲ 29.7
H 21.11	▲ 29.2	(▲ 14.2)	▲ 31.8	▲ 22.3	▲ 11.3	▲ 21.7
	変化幅	15.8	12.7	17.1	12.7	8.0
H 22.02	▲ 33.7	-	▲ 26.0	▲ 29.2	▲ 10.8	▲ 34.3
(見通し)	変化幅	▲ 4.5	5.8	▲ 6.9	0.5	▲ 12.6
(参考)						
ピーク	9.5	9.9	6.5	▲2.2	11	▲6.6
	(H18.05)	(H18.11)	(H18.05)	(H18.05)	(H18.05)	(H19.05)
ボトム	▲ 46.6	▲ 45.0	▲ 45.4	▲ 42.7	▲ 42.7	▲ 33.7
	(H21.05)	(H21.05)	(H21.05)	(H21.05)	(H21.05)	(H21.05)

図表1-2 DI値(前年同期比)の長期推移



(2) 業種別の業況

① 建設業

**現状判断：一時的な回復が見られた。**

業況は、前年同期比、前期比ともに「悪い」超。但し「自社の業況」DI値（前年同期比）は▲16.1となっており、前回調査時点と比べて14.6ポイント改善した。

国や自治体による公共事業の前倒しは業界にとってカンフル剤のようなものであり、一時的な需要と雇用を生み出す結果につながった。しかしながら、公共施設の耐震・拡張工事など小規模なものが多かったため、景気回復の起爆剤には成り得ず、むしろ各社はその後の反動を警戒している。

また民間工事については大規模な設備投資はほとんど見られず、県内企業の需要低迷は深刻であった。

住宅建築についても来年の“三隣亡”を見越して一部の地域で新築の駆け込み需要が見られたが、景気悪化による将来の所得や雇用への不安からか、住宅取得に対する意欲は低下しており、依然として冷え切った状況にある。

**先行き見通し：再び悪化に転じる見込み。**

業況の先行き見通しは、自社の業況DI値が▲45.9となっており、再び悪化に転じる見込み。

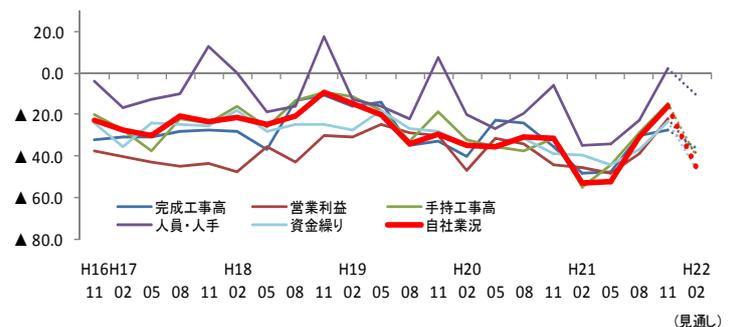
今期においては前政権の予算に盛り込まれた公共事業の前倒し発注によって建設需要は回復し雇用も一時的に改善しているが、新政権による公共事業の見直しや補正予算の一部執行凍結などの方針を打ち出している中で、県内においても公共事業の削減は避けられそうにもなく各社とも来期への見通しは厳しいものとなっている。

今後においてはかつてのように自治体による大きな公共事業に頼ることは難しいため、来年から導入される「住宅版エコポイント制度」での民間住宅のリフォーム需要に活路を見出していく必要がある。

図表 2-1 現状判断と先行き見通し(各DI値の動向)

(前年同期比) (調査時点)	自社業況		完成 工事高	営業 利益	手持 工事高	人員 人手	資金 繰り	
	(前期比)	(前期比)						
H 21.08	▲ 30.7	(▲ 30.7)	▲ 29.8	▲ 38.7	▲ 29.0	▲ 22.6	▲ 37.1	
H 21.11	▲ 16.1	(▲ 5.6)	▲ 27.5	▲ 21.8	▲ 14.5	2.4	▲ 23.4	
	変化幅	14.6	(25.1)	2.3	16.9	14.5	25.0	13.7
H 22.02	▲ 45.9	-	▲ 36.3	▲ 38.7	▲ 40.3	▲ 10.4	▲ 46.0	
(見通し)	変化幅	▲ 29.8	-	▲ 8.8	▲ 16.9	▲ 25.8	▲ 12.8	▲ 22.6
(参考)								
ピーク	▲ 9.3	0	▲ 10.3	▲ 29.0	▲ 9.3	13.2	▲ 18.1	
	(H18.11)	(H18.11)	(H18.11)	(H19.08)	(H18.11)	(H17.11)	(H19.05)	
ボトム	▲ 52.7	▲ 43.0	▲ 48.3	▲ 48.3	▲ 55.3	▲ 35.4	▲ 44.2	
	(H21.02)	(H21.05)	(H21.02)	(H21.05)	(H21.02)	(H21.02)	(H21.05)	

図表 2-2 自社業況DI値(前年同期比)の推移



業界の声

Q. 今期の業況について

- 今年の前半は学校などの耐震補強の工事が多く、民間の設備投資はほとんどなかった。来年は三隣亡ということもあり今年も駆け込みでの住宅建築が多かったが、公共工事に比べて売り上げ全体に対してのウェイトは1割程度と低い。(総合工事業、A社)
- 前の知事よりも今の知事は公共工事に対して前向きに感じられる。公共工事の前倒しにより11月から受注数が回復してきているものの、発注価格が低いため利益が伴わない状態。今期は増収減益となる見込みである。(同、B社)
- 今年は天地人ブームにより米沢にはかなりの観光客が訪れ、経済効果は大きかった。地元の民間住宅を主体で取り扱っているが、今後は住宅エコポイントでのリフォーム工事が見込まれるため、まだ光はあるだろう。(同、C社)
- 建設工事の入札参加基準が厳しくなったことから低価格入札が減ってきている。売り上げは変わらないが利益は上がってきた。給料についてはもともと低い水準のためこれ以上は下げられないし、従業員の士気の低下に繋がってしまうだろう。新規採用は技術職のみで地元から3人予定している。(同、D社)

Q. 来期の見通しについて

- この3年間新卒はとっておらず、昨年比で従業員が30人減った。退職者のピークは過ぎたが会社の人員構成に偏りが出てきており問題となっている。(総合工事業、A社)
- 政権が代わり建設業はこれから先が見えない。新規事業に取り組むなど業界自体のビジネスモデルが変わっていくのではないかと。(同、B社)
- 高校の進路担当者から採用に関する話はあるが人材教育できる余裕がないため、はじめから求人を出すことができない。即戦力となる人材なら必要としている。(同、C社)
- 自前で除雪車を所有している業者にとって冬は雪が降ってくれないと困る。単価は低いけど冬期間の仕事としてかなり当てにしている。(同、D社)

## ② 製造業

### 現状判断：下げ止まりの兆しが見られる。

業況は、前年同期比、前期比ともに「悪い」超。但し「自社の業況」D I 値（前年同期比）は▲36.3 となっており、前回調査時点より 18.9 ポイント回復し、下げ止まりの兆しが見られる。

先般の景気後退による需要の大幅減少により、県内の製造業者も減産や在庫調整を強いられてきたが、第3四半期に入って受注は徐々に回復してきており、人員不足が出始めている企業も見受けられる。前回調査よりも売上高D I 値が 16.9 ポイント、営業利益D I 値が 22.6 ポイント回復しており、最悪期は抜け出した感がある。

その要因としては、昨年からの在庫調整が一段落したこと、中国をはじめとする新興国の経済が好調であるため生産や輸出が増加していること、エコカー減税、家電のエコポイントなど政策効果による需要の持ち直しがD I 値の回復につながったと考えられる。

### 先行き見通し：回復するも予断を許さない状況。

業況の先行き見通しは、自社の業況D I 値が▲29.4 となっており、D I 値は引き続き改善する見込み。

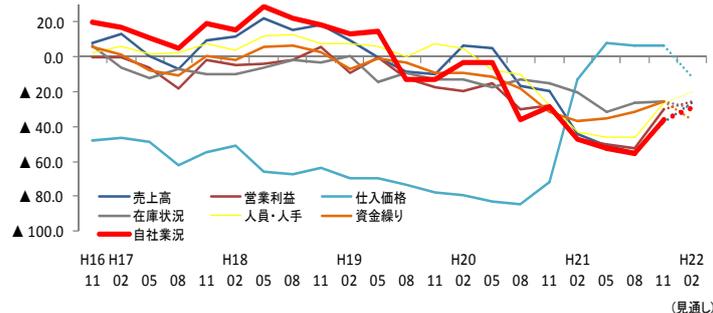
売上高D I 値、営業利益D I 値がともに継続して回復する見込みであるが、一方で円高による材料の仕入れ価格の上昇も同時に懸念されている。また将来に向けた新たな設備投資や人員雇用も減っている。大幅な人員削減などスリム化を図った状態に受注が回復したことから人手不足に陥っている企業もあるが、先が見えないために新規雇用には手が出せない状態である。

今後は円高とデフレ進行の「二重苦」が懸念されており、依然として予断を許さない状況が続く見通しである。

図表 3-1 現状判断と先行き見通し(各DI値の動向)

(前年同期比) (調査時点)	自社業況		売上高	営業利益	仕入価格	在庫状況	人員人手	資金繰り	
	(前期比)	(前年同期比)							
H 21.08	▲55.2	(▲27.9)	▲54.6	▲52.6	6.5	▲26.0	▲46.1	▲31.8	
H 21.11	▲36.3	(▲9.8)	▲37.7	▲30.0	6.3	▲25.9	▲26.6	▲25.2	
	変化幅	18.9	(18.1)	16.9	22.6	▲0.2	0.1	19.5	6.6
H 22.02	▲29.4	-	▲26.6	▲25.9	▲11.2	▲29.4	▲20.3	▲35.7	
(見通し) 変化幅	6.9	-	11.1	4.1	▲17.5	▲3.5	6.3	▲10.5	
(参考)									
ピーク	28.7	29.1	6.5	22.2	7.9	6.9	13.1	6.6	
	(H18.05)	(H18.02)	(H18.05)	(H18.05)	(H21.05)	(H16.11)	(H18.08)	(H18.08)	
ボトム	▲52.4	▲50.4	▲45.4	▲51.0	▲84.5	▲31.8	▲46.3	▲36.6	
	(H21.05)	(H21.05)	(H21.05)	(H21.05)	(H20.08)	(H21.05)	(H21.05)	(H21.02)	

図表 3-2 自社業況DI値(前年同期比)の推移



業界の声

Q. 今期の業況について

- エコカー減税・補助金などの政策効果により9月に入ってからハイブリッドカー関連の受注が大幅に増えた。今はラインが追い付かず残業や休日出勤での対応をとっている。(輸送機械、A社)
- 北米市場で国産SUV車種が販売好調によりハーネス部門での売り上げが大幅に増加。最近銅の価格が上がり続けていることもあり製品の売価が上がった。第3四半期は黒字の見込み。稼働状況については120%であり忙しくなってきた。(同、B社)
- 今期は派遣社員の契約打ち切りやグループ会社への異動など人員整理を行った結果、正社員をなんとか維持することができた。前年同期比での売上は約半分となっているが第3四半期は持ち直して来ており黒字の見込みである。(同、C社)
- 年末年始に需要が高い電子製品の部品を製造しているため、作業のピークが7～8月であった。昨年同期に比べラインも稼働しており、最近底を抜けだした感がある。(電子部品・デバイス、D社)

Q. 来期の見通しについて

- 大きな設備投資が一段落付いたので今は返済中心である。来春の内定16人は全て高卒で地元以外からは4人の予定。女性従業員が多くかつ高年齢化してきており退職者との入れ替えが出てくるだろう。(輸送機械、A社)
- 自動車部品を輸出していることから、第4四半期は円高の影響が心配。採算がとれる為替レートは1ドル95円くらいであり受注が減る可能性もある。雇用については来春10名採用予定でほとんど大卒である。(同、B社)
- 来期も大規模な設備投資は行わず、使わなくなったラインを海外の工場に持っていくなどの設備の有効活用とライン構成を見直すことでの作業の効率化を図っていく。10～11月は政策効果による需要拡大により大幅黒字となったが、そのあとの反動は必ず来るだろう。(同、C社)
- 親会社が製造している製品はすでに国内市場において飽和状態であるため、海外でのシェアアップを図り攻勢をかけていく。いかに他にないものを造っていくのが課題。人員削減は行っておらず来春の新規採用は10数名。自然退職者よりも多く採る予定。(電子部品・デバイス、D社)

### ③ 卸・小売業

#### 現状判断：横ばいとなっている。

業況は、前年同期比、前期比ともに「悪い」超。「自社の業況」DI値（前年同期比）は▲38.9 となっており、前回調査時点よりもわずかに回復し、横ばいとなっている。但し、前年同期比の自社業況は本調査開始以来最悪であった前期からわずかに改善した程度で、水準は依然として低い。

売上高DI値は前回より16.4ポイント改善、営業利益DI値も前回より11.6ポイント改善、在庫状況DI値も3.3ポイント改善するなど、落ち着きを取り戻しつつある。仕入価格は原油をはじめとする燃料価格、資材価格が前年冬季から低下してきたことから落ち着きを取り戻しつつあったが、本年夏季以降は価格低下も一服し、仕入価格DI値は前回比ほぼ横ばいとなった。また、資金繰りDI値は前回調査時点よりも3.9ポイント悪化し、一進一退を繰り返している。

業態別にみると、食料品などの最寄り品を扱う業者の業況は引き続き厳しい。消費者の買い控えは本年夏季以降一段と進んだとする見方が多く、消費は低迷しているとの印象を持っている。建設業界の一時的な回復の影響もあって資材関連の卸売業の一部に回復の兆しが見られるものの長続きはしないと考えられる。

#### 先行き見通し：低い水準で推移する見込み。

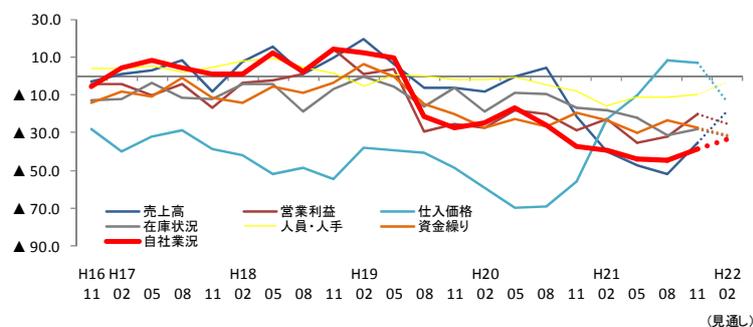
業況の先行き見通しは、自社の業況DI値が▲33.0 となっており、今期に比べわずかに改善するものの、引き続き低い水準で推移する見込み。

冬季ボーナスの減少など、所得環境の悪化から生活関連商品を中心に個人消費は引き続き低調に推移する可能性が高く、家計の緊縮化継続に伴う販売不振の長期化が懸念される。また、資材価格の上昇が懸念されており、仕入価格DI値は、今期に比べて21.2ポイントの大幅な悪化予想となった。

図表 4-1 現状判断と先行き見通し(各DI値の動向)

(前年同期比) (調査時点)	自社業況		売上高	営業利益	仕入価格	在庫状況	人員 人手	資金 繰り
	(前期比)	(前年同期比)						
H 21.08	▲ 44.8	(▲ 33.6)	▲ 52.0	▲ 32.0	8.0	▲ 31.2	▲ 11.2	▲ 23.2
H 21.11	▲ 38.9	(▲ 25.5)	▲ 35.6	▲ 20.4	6.8	▲ 27.9	▲ 10.1	▲ 27.1
変化幅	5.9	(8.1)	16.4	11.6	▲ 1.2	3.3	1.1	▲ 3.9
H 22.02 (見通し)	▲ 33.0	-	▲ 17.8	▲ 25.5	▲ 14.4	▲ 32.2	▲ 3.4	▲ 31.4
変化幅	5.9	-	17.8	▲ 5.1	▲ 21.2	▲ 4.3	6.7	▲ 4.3
(参考)								
ピーク	14.4	9.9	19.6	14.4	6.8	0	9	6.5
	(H18.11)	(H18.02)	(H19.02)	(H18.11)	(H21.11)	(H19.02)	(H18.05)	(H19.02)
ボトム	▲ 43.6	▲ 44.5	▲ 47.0	▲ 35.0	▲ 69.6	▲ 27.9	▲ 15.7	▲ 29.9
	(H21.05)	(H21.05)	(H21.05)	(H21.05)	(H20.05)	(H21.01)	(H21.02)	(H21.05)

図表 4-2 自社業況DI値(前年同期比)の推移



### Q. 今期の業況について

- 今年上半期は、売上げ不振が著しく前年比▲10%～▲15%と非常に厳しかったが、秋以降は食料品の売上げが底支えとなり、去年の冬のような最悪期よりは少しは良くなった。消費者が余計な物は一切買わない傾向は一段と強まっている。バーゲンセールであっても必要なものだけ買う“ねらい買い”が顕著になっているので厳しい。(各種商品小売り、A社)
- 売上げが厳しい。9月までは前年比約▲10%以上。来店客数は前年と比べ微減なのだが買い上げ点数が極端に落ちていることと、客単価の低下が著しい。消費者は価格に非常に敏感で、「一円でも安く」との態度は鮮明。苦肉の策で、商品の量を減らして価格も引き下げ、見かけ上の値下げを行っているが、このようなことは長続きしない。(各種商品小売り、B社)
- ガソリン価格の乱高下に振り回されていた去年と比較すれば落ち着きはある。しかし、「満タン」にするお客の割合が減少するなど、必要以上のガソリンは決して入れてくれない。今年の春以降は価格も“ジリ高”の傾向。サービスデーの拡大など客足をつなぎ止める努力はしているが効果は薄いのが現状。もうけもカツカツ。(燃料小売り、C社)
- 選挙の年だったことの影響もあって確かに地域の建設業は一息ついている感じはある。ただし、ほとんどボーナスが出ていないのが実態。取引先の中に年を越せない会社が出るのではと心配している。(建設資材卸、D社)

### Q. 来期の見通しについて

- 歳末商戦はボーナス支給の減少が言われる中、厳しいことは覚悟している。特に冬物衣料品の売上げが相当落ち込むと思う。しかし、年間トータルでは、厳しいだろうが売上げで前年比▲4%～▲5%程度、できればトントンは持って行きたい。(各種商品小売り、A社)
- 売上げが大きく改善する見込みはない。低単価、売上げ減の傾向は続くとみている。赤字だった前年度ほど悪くはならないだろうが、年間トータルでの売上げは前年比▲5%程度で収まるかどうか？(各種商品小売り、B社)
- 年間トータルで売上げは前年比トントン、利益のマイナスは確実。ガソリンの暫定税率廃止に期待していたが、結局ダメのようだし。消費者の買い控え姿勢が簡単に変わるとは思っていない。(燃料小売り、C社)

④ サービス業

**現状判断：下げ止まりの兆しがみられる。**

業況は、前年同期比、前期比ともに「悪い」超。但し「自社の業況」DI値（前年同期比）は▲24.6となっており、前回調査時点より22.1ポイントの大幅回復となり、下げ止まりの兆しがみられる。

大河ドラマ「天地人」や映画「おくりびと」のアカデミー賞外国語映画賞などによって、ドラマゆかりの地やロケ地への観光客が増加し、宿泊業、観光関連産業を中心に業況の改善が見られ、売上高DI値は前回より13.9ポイント改善、営業利益DI値も前回より15.5ポイント改善、人員の過剰感も減少するなど、落ち着きを取り戻しつつある。製造業の業況の緩やかな回復を背景に貨物輸送業の一部にも回復の兆しがうかがえた。

しかし、前年同期比の自社業況DI値が本調査開始以来最悪であった前回調査時から反転したものの、DI値の水準は1年前と大差はなく、過去1年間の悪化により歯止めが程度、あるいは前年同期が悪すぎたので、その時と比較すれば多少は良くなった程度との認識が根強い。

**先行き見通し：浮揚力に乏しい展開。**

業況の先行き見通しは、自社の業況DI値が▲27.0となっており、若干悪化の見込み。営業利益DI値、資金繰りDI値も再び悪化を予想しており、浮揚力に乏しい展開となる見込み。

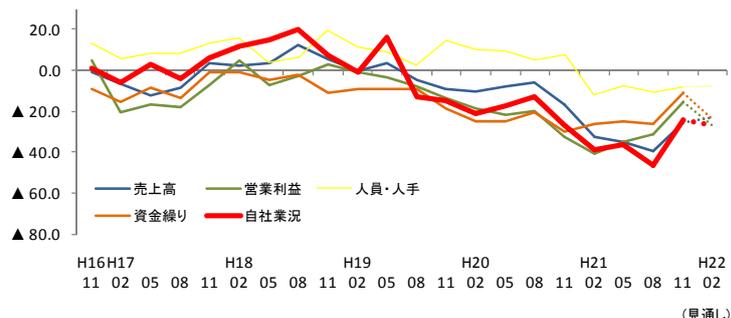
ドラマや映画の集客効果が一巡することや、消費者の所得環境の厳しさが反映して、対個人サービス業の回復には息切れ感が根強く、この機をとらえて一段のコスト削減を目指す事業者もある。

対事業所サービス業では、製造業の業況回復には懐疑的な見方が多く、このため現在の業況悪化下げ止まり感を一時的なものとする考えが支配的。

図表 5-1 現状判断と先行き見通し(各DI値の動向)

(前年同期比) (調査時点)	自社業況		売上高	営業利益	人員 人手	資金 繰り
	(前期比)	(前期比)				
H 21.08	▲ 46.7	(▲ 29.5)	▲ 39.3	▲ 31.1	▲ 10.7	▲ 26.2
H 21.11	▲ 24.6	(▲ 17.2)	▲ 25.4	▲ 15.6	▲ 8.2	▲ 10.7
	変化幅	22.1	13.9	15.5	2.5	15.5
H 22.02	▲ 27.0	-	▲ 22.9	▲ 27.1	▲ 7.4	▲ 23.8
(見通し)	変化幅	▲ 2.4	2.5	▲ 11.5	0.8	▲ 13.1
(参考)						
ピーク	19.7	18.8	12.3	5.1	19.8	▲ 1.2
	(H18.08)	(H18.05)	(H18.08)	(H16.11)	(H18.11)	(H18.02)
ボトム	▲ 38.7	▲ 38.8	▲ 35.0	▲ 40.5	▲ 12.2	▲ 30.0
	(H21.02)	(H21.02)	(H21.05)	(H21.02)	(H21.02)	(H20.11)

図表 5-2 自社業況DI値(前年同期比)の推移



業界の声

Q. 今期の業況について

- ピーク 25 人いた従業員が今は 15 人に減らしたがそれでもまだ余剰感がある。役員報酬カットや節電など考えられ得るコストカットを尽くした。昨年に製造業を中心として派遣社員の求人広告が激減したがその後も回復していない状態。(広告代理業、A社)
- 高速料金の割引やモンテディオ山形の試合開催時の県外客の宿泊需要増加など、去年と比較すればそれなりに好材料はあったが、全体の売上げは前年同期比で▲5%~▲6%となり、依然として厳しいことには変わりはない。費用の中で、例えば小麦粉の価格が前年比約▲5%、重油が約▲30%など資材の価格が安定しているので助かっている。(宿泊、B社)
- インターネット予約の宿泊客が引き続き増加しているため、宿泊単価は下落するばかり。利用客は安いホテルばかりを狙っている。宿泊客がいないよりはマシと割り切るしかない。(宿泊、C社)
- 夏季以降、観光タクシー部門は売上げが前年比約 5%プラスになり比較的安定していた。ドラマや映画の効果はそれなりにあったのではないかと。しかし、夜の飲食店街は昨年来ずっとひどい状況が続いている。(タクシー、D社)

Q. 来期の見通しについて

- 広告媒体が紙からネットへ移ってきており広告業界自体が過渡期にある。今後ネットやモバイルサイトにも力を入れ、新しい顧客開拓に繋げていかななくてはならない。(広告代理業、A社)
- 3月の一般宴会の予約は企業関係のパーティーなどが昨年よりも良く、まあまあの状況。ただし1月、2月は厳しいので年間を通しての売上げは前年比▲5%になる見込み。料理メニューは安いものがよく売れる。デフレを感じる(宿泊、B社)
- 料理メニューは安いものがよく売れる。市内のホテルは節操の無いダンピングが横行している。このようなことは止めた方がよいと業界全体では考えているが、さし当たり今日の売上げのことを考えればこの傾向は続くと思う。(宿泊、C社)
- これ以上悪くならないでくれと願うばかり。早く雪が降れば客数も伸びるのだが……。 (タクシー、D社)

## 2. 各地の概況

### (1) 各地の景気動向

#### 庄内飽海：低い水準で推移。

自社業況は 10.5 ポイント回復、D I 値は ▲29.3 となり、低い水準で推移している。全業種にわたって小幅な改善がみられ、建設業はプラスに転じたが来期は再び厳しい業況が予想される。

#### 最上：不安感が継続している。

自社業況は 30.9 ポイント回復、D I 値がプラスに転じた。卸・小売業以外の業種で大幅な改善が見られたが、一時的なものとして受け止められており、来期は再び厳しい業況が予想される。

#### 庄内田川：低い水準で推移。

自社業況は 17.1 ポイント回復、D I 値は ▲30.2 となり、低い水準で推移している。来期は製造業のみ改善の見込みとなったが、建設業においては厳しい業況が続くと予想される。

#### 村山北部：低い水準で横ばい。

自社業況は 4.7 ポイント悪化、D I 値は ▲40.9 となり、低い水準で横ばいとなっている。卸・小売業のみ 5.5 ポイント回復がみられたが、来期は建設業が ▲68.4 と大きな落ち込みが予想される。

#### 置賜：低い水準で推移。

自社業況は 20.1 ポイント回復し ▲36.8 となり、低い水準で推移している。卸・小売業以外で大幅な改善がみられたが、来期は地域別でもっとも見通しの暗い予想となった。

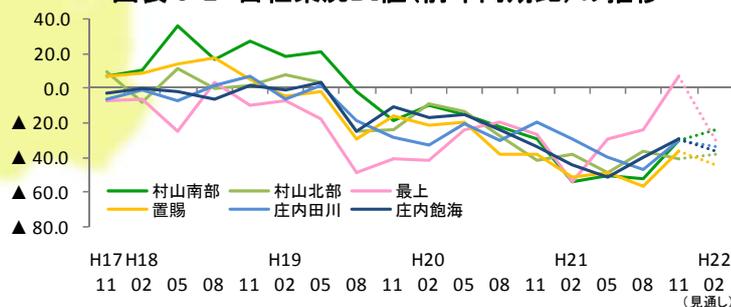
#### 村山南部：底入れしつつある。

自社業況は 22.2 ポイント回復、D I 値は ▲30.0 となり景気は底入れしつつある。とくに製造業、サービス業での回復が大きい。見通しもサービス業においては 19.1 ポイント回復の見込み。

図表 6-1 各地の景気動向(「自社業況DI値」の動向)

(前年同期比) (調査時点)	村山 南部	村山 北部	最上	置賜	庄内 田川	庄内 飽海
H 21.08	▲ 52.2	▲ 36.2	▲ 23.9	▲ 56.9	▲ 47.3	▲ 39.8
H 21.11	▲ 30.0	▲ 40.9	7.0	▲ 36.8	▲ 30.2	▲ 29.3
変化幅	22.2	▲ 4.7	30.9	20.1	17.1	10.5
H 22.02(見通し)	▲ 23.9	▲ 37.9	▲ 30.2	▲ 44.7	▲ 33.8	▲ 36.8
変化幅	6.1	3.0	▲ 37.2	▲ 7.9	▲ 3.6	▲ 7.5

図表 6-2 自社業況DI値(前年同期比)の推移



(2) 現状判断の動向

① 村山南部

(前年同期比) (調査時点)	自社業況		売上高	営業利益	人員人手	資金繰り	業種別・自社業況				
	(前期比)						建設業	製造業	卸・小売業	サービス業	
H 21.08	▲ 52.2	(▲ 33.6)	▲ 45.0	▲ 32.8	▲ 27.9	▲ 29.3	▲ 33.4	▲ 62.9	▲ 58.5	▲ 46.5	
H 21.11	▲ 30.0	(▲ 20.0)	▲ 27.7	▲ 20.0	▲ 7.0	▲ 18.4	▲ 19.1	▲ 32.1	▲ 46.1	▲ 19.1	
	変化幅	22.2	(13.6)	17.3	12.8	20.9	10.9	14.3	30.8	12.4	27.4
H 22.02	▲ 23.9	-	▲ 20.7	▲ 30.0	▲ 3.1	▲ 30.0	▲ 28.6	▲ 28.5	▲ 43.6	0.0	
(見通し)	変化幅	6.1	-	7.0	▲ 10.0	3.9	▲ 11.6	▲ 9.5	3.6	2.5	19.1

② 村山北部

(前年同期比) (調査時点)	自社業況		売上高	営業利益	人員人手	資金繰り	業種別・自社業況				
	(前期比)						建設業	製造業	卸・小売業	サービス業	
H 21.08	▲ 36.2	(▲ 16.0)	▲ 43.5	▲ 43.5	▲ 20.3	▲ 23.2	▲ 25.0	▲ 36.7	▲ 50.0	▲ 36.3	
H 21.11	▲ 40.9	(▲ 21.2)	▲ 39.4	▲ 27.3	▲ 21.2	▲ 10.6	▲ 26.3	▲ 44.5	▲ 44.5	▲ 54.5	
	変化幅	▲ 4.7	(▲ 5.2)	4.1	16.2	▲ 0.9	12.6	▲ 1.3	▲ 7.8	5.5	▲ 18.2
H 22.02	▲ 37.9	-	▲ 40.9	▲ 39.4	▲ 24.3	▲ 31.8	▲ 68.4	▲ 22.2	0.0	▲ 54.5	
(見通し)	変化幅	3.0	-	▲ 1.5	▲ 12.1	▲ 3.1	▲ 21.2	▲ 42.1	22.3	44.5	0.0

③ 最上

(前年同期比) (調査時点)	自社業況		売上高	営業利益	人員人手	資金繰り	業種別・自社業況				
	(前期比)						建設業	製造業	卸・小売業	サービス業	
H 21.08	▲ 23.9	(▲ 17.4)	▲ 28.2	▲ 30.4	▲ 15.2	▲ 37.0	▲ 10.0	▲ 66.7	14.3	▲ 40.0	
H 21.11	7.0	(16.3)	0.0	▲ 2.4	16.3	▲ 9.3	17.7	0.0	0.0	0.0	
	変化幅	30.9	(33.7)	28.2	28.0	31.5	27.7	27.7	66.7	▲ 14.3	40.0
H 22.02	▲ 30.2	-	▲ 9.3	▲ 23.2	2.3	▲ 30.2	▲ 29.4	▲ 33.3	▲ 28.5	▲ 30.0	
(見通し)	変化幅	▲ 37.2	-	▲ 9.3	▲ 20.8	▲ 14.0	▲ 20.9	▲ 47.1	▲ 33.3	▲ 28.5	▲ 30.0

④ 置賜

(前年同期比) (調査時点)	自社業況		売上高	営業利益	人員人手	資金繰り	業種別・自社業況				
	(前期比)						建設業	製造業	卸・小売業	サービス業	
H 21.08	▲ 56.9	(▲ 51.4)	▲ 59.7	▲ 58.3	▲ 37.5	▲ 50.0	▲ 80.0	▲ 65.4	▲ 47.4	▲ 25.0	
H 21.11	▲ 36.8	(▲ 19.7)	▲ 42.1	▲ 39.5	▲ 23.6	▲ 35.6	▲ 41.1	▲ 34.5	▲ 64.7	0.0	
	変化幅	20.1	(31.7)	17.6	18.8	13.9	14.4	38.9	30.9	▲ 17.3	25.0
H 22.02	▲ 44.7	-	▲ 36.9	▲ 42.1	▲ 19.8	▲ 46.1	▲ 58.8	▲ 34.5	▲ 47.0	▲ 46.1	
(見通し)	変化幅	▲ 7.9	-	5.2	▲ 2.6	3.8	▲ 10.5	▲ 17.7	0.0	17.7	▲ 46.1

⑤ 庄内田川

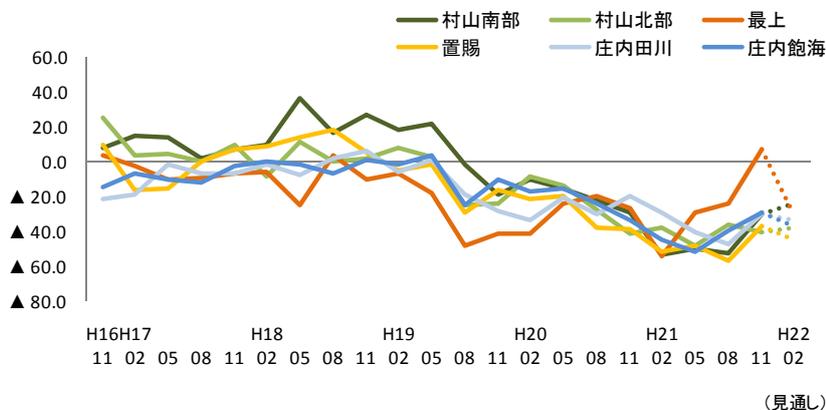
(前年同期比) (調査時点)	自社業況		売上高	営業利益	人員人手	資金繰り	業種別・自社業況				
	(前期比)						建設業	製造業	卸・小売業	サービス業	
H 21.08	▲ 47.3	(▲ 32.7)	▲ 50.5	▲ 36.8	▲ 27.4	▲ 31.6	▲ 37.5	▲ 57.2	▲ 36.4	▲ 57.1	
H 21.11	▲ 30.2	(▲ 16.3)	▲ 39.5	▲ 10.5	▲ 18.6	▲ 30.2	▲ 38.1	▲ 34.8	▲ 18.2	▲ 30.0	
	変化幅	17.1	(16.4)	11.0	26.3	8.8	1.4	▲ 0.6	22.4	18.2	27.1
H 22.02	▲ 33.8	-	▲ 25.6	▲ 15.1	▲ 12.8	▲ 32.5	▲ 57.1	▲ 17.4	▲ 31.8	▲ 30.0	
(見通し)	変化幅	▲ 3.6	-	13.9	▲ 4.6	5.8	▲ 2.3	▲ 19.0	17.4	▲ 13.6	0.0

⑥ 庄内飽海

(前年同期比) (調査時点)	自社業況		売上高	営業利益	人員人手	資金繰り	業種別・自社業況				
	(前期比)						建設業	製造業	卸・小売業	サービス業	
H 21.08	▲ 39.8	(▲ 24.3)	▲ 35.9	▲ 38.9	▲ 12.6	▲ 15.5	▲ 14.3	▲ 50.0	▲ 41.7	▲ 56.0	
H 21.11	▲ 29.3	(▲ 9.4)	▲ 31.2	▲ 27.3	▲ 6.6	▲ 20.7	3.5	▲ 48.2	▲ 37.5	▲ 38.5	
	変化幅	10.5	(14.9)	4.7	11.6	6.0	▲ 5.2	17.8	1.8	4.2	17.5
H 22.02	▲ 36.8	-	▲ 22.6	▲ 26.4	▲ 9.4	▲ 35.9	▲ 38.0	▲ 40.8	▲ 20.8	▲ 46.2	
(見通し)	変化幅	▲ 7.5	-	8.6	0.9	▲ 2.8	▲ 15.2	▲ 41.5	7.4	16.7	▲ 7.7

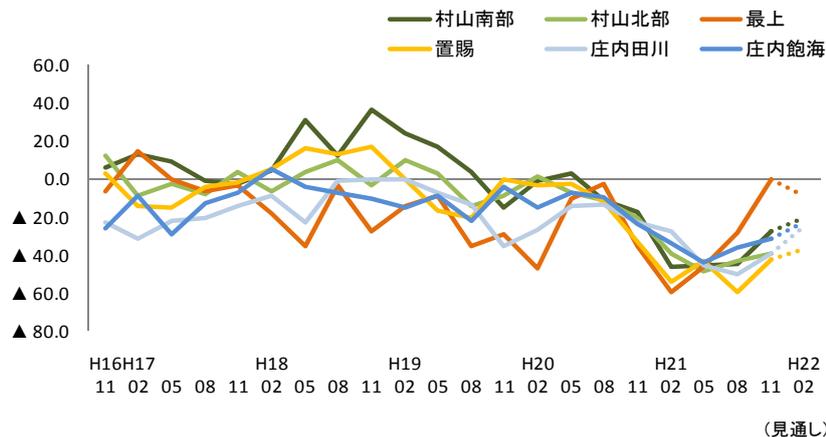
### (3) 現状判断の長期推移

#### ① 自社の業況



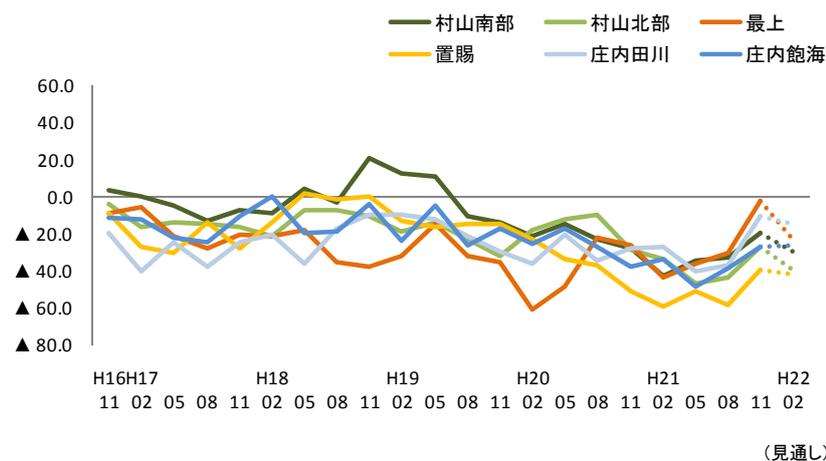
	ピーク	ボトム
村山南部	36.2 (H18.05)	▲53.7 (H21.02)
村山北部	25.5 (H16.11)	▲48.4 (H21.05)
最上	3.2 (H18.08)	▲54.1 (H21.02)
置賜	17.8 (H18.08)	▲51.3 (H21.02)
庄内田川	6.4 (H18.11)	▲40.4 (H21.05)
庄内飽海	3.7 (H19.05)	▲51.5 (H21.05)

#### ② 売上高



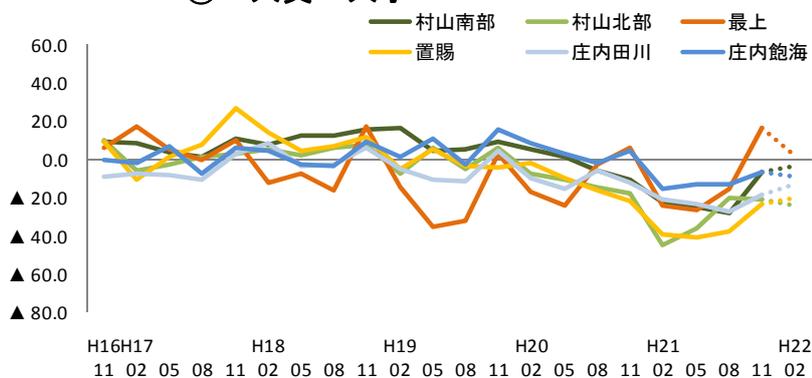
	ピーク	ボトム
村山南部	36.4 (H18.11)	▲46.3 (H21.02)
村山北部	11.8 (H16.11)	▲48.5 (H21.05)
最上	14.3 (H17.02)	▲59.5 (H21.02)
置賜	16.7 (H18.11)	▲54.1 (H21.02)
庄内田川	0.0 (H19.02)	▲45.8 (H21.02)
庄内飽海	4.9 (H18.02)	▲43.8 (H21.05)

#### ③ 営業利益



	ピーク	ボトム
村山南部	20.4 (H18.11)	▲43.1 (H21.02)
村山北部	▲4.0 (H16.11)	▲46.9 (H21.05)
最上	▲5.7 (H17.02)	▲61.1 (H20.02)
置賜	2.0 (H18.05)	▲59.4 (H21.02)
庄内田川	▲9.7 (H18.11)	▲40.8 (H17.02)
庄内飽海	0.0 (H18.02)	▲48.6 (H21.05)

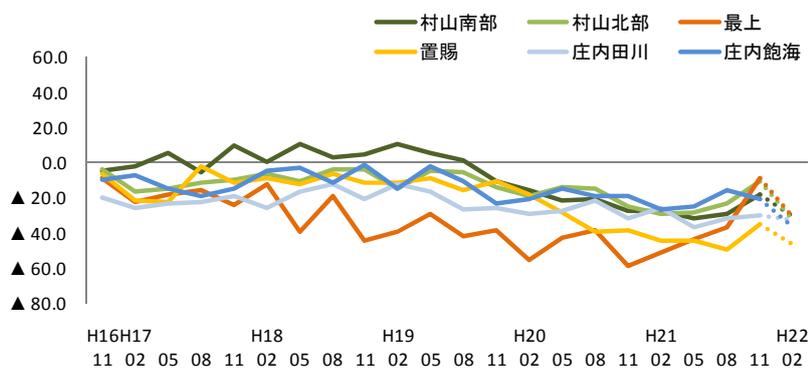
④ 人員・人手



	ピーク	ボトム
村山南部	16.3 (H19.02)	▲24.8 (H21.05)
村山北部	9.8 (H16.11)	▲45.1 (H21.02)
最上	17.2 (H17.02)	▲35.3 (H19.05)
置賜	26.7 (H17.11)	▲40.8 (H21.05)
庄内田川	8.7 (H18.02)	▲23.4 (H21.05)
庄内飽海	16.0 (H19.11)	▲15.7 (H21.02)

(見通し)

⑤ 資金繰り



	ピーク	ボトム
村山南部	10.6 (H18.05)	▲31.5 (H21.05)
村山北部	▲3.7 (H18.11)	▲29.6 (H21.02)
最上	▲9.4 (H16.11)	▲55.5 (H20.02)
置賜	▲1.9 (H17.08)	▲44.7 (H21.05)
庄内田川	▲12.3 (H19.02)	▲37.3 (H21.05)
庄内飽海	▲1.3 (H18.11)	▲26.5 (H21.02)

(見通し)

### 3. 景気の天気図

※ 天気図とは、地域別・業種別に「自社業況DI値」（前年同期比）を5段階に分けて図解したものです。「天気図の凡例」をご参照のこと。

【天気図の凡例】

特に好調 DI $\geq$ 30	好調 30>DI $\geq$ 10	まあまあ 10>DI $\geq$ ▲10	不振 ▲10>DI $\geq$ ▲30	きわめて不振 ▲30>DI

図表3-1 景気天気図

◆ 前期の概況（平成21年8月調査）

	山形県	村山南部	村山北部	最上	上置賜	庄内田川	庄内飽海
全業種							
建設業							
製造業							
卸・小売業							
サービス業							

◆ 今期の概況（平成21年11月調査）

	山形県	村山南部	村山北部	最上	上置賜	庄内田川	庄内飽海
全業種							
建設業							
製造業							
卸・小売業							
サービス業							

◆ 来期の見通し（平成21年11月調査）

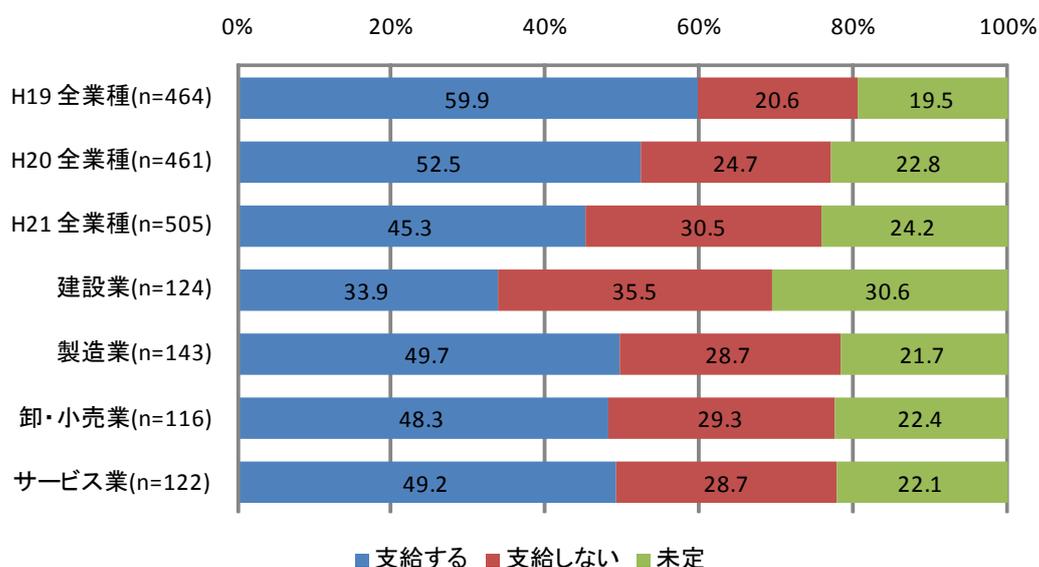
	山形県	村山南部	村山北部	最上	上置賜	庄内田川	庄内飽海
全業種							
建設業							
製造業							
卸・小売業							
サービス業							

#### 4. 特別調査：冬季ボーナスの支給動向について

冬季ボーナスの支給予定について尋ねたところ（下図参照）、全業種では45.3%が「支給する」と回答した。「支給する」と回答した企業は、昨年冬季に比べて7.2ポイント減少、「支給しない」という回答をした企業も30.5%と過去最低の支給動向である。

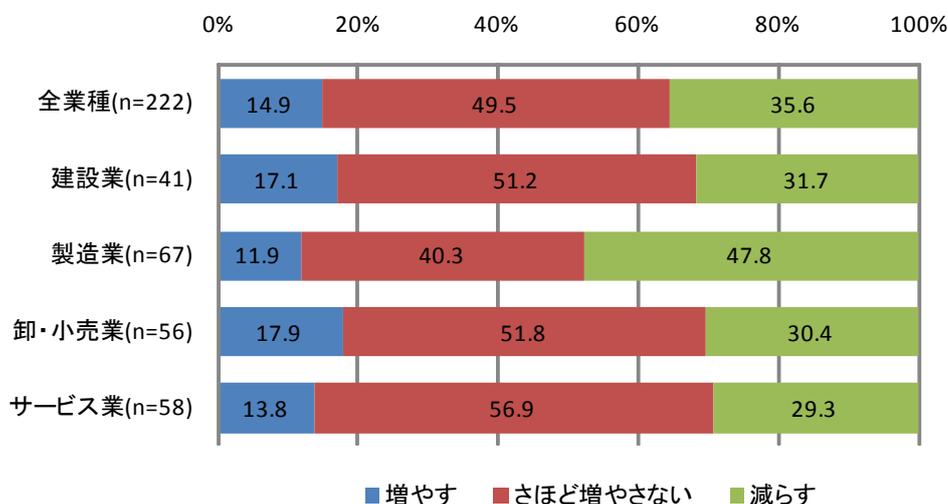
業種別では、「支給する」と回答した企業の割合が最も低かったのは建設業で33.9%であり、他業種との支給動向の差が顕著に表れている。昨年冬季の支給率に比べると28.2ポイントの大幅減少となった。

冬季ボーナスの支給予定動向（割合）



また、今季「支給する」と回答した企業に対し、昨年と比べて1人あたりの支給額を増やすかどうか尋ねたところ（下図参照）、全業種でみて「さほど増やさない」と答えた企業が最も多く、49.5%であった。「減らす」と答えた企業は35.6%であった。

冬季ボーナスを「支給する」企業の支給態度



なお、具体的なボーナスの支給予定額については（下図参照）、全業種平均で 261,046 円であった。今季は、昨年の冬に比べて 14,192 円（5.2%）の減少となる見込み。

冬季ボーナスの支給動向（支給額）



<参考資料Ⅰ：地域別・業種別回答率>

(調査対象企業数)

	建設業	製造業	卸・小売業	サービス業	合計
村山南部	33	44	68	64	209
村山北部	30	46	23	28	127
最上	27	16	19	19	81
置賜	29	42	33	28	132
庄内田川	42	46	41	46	175
庄内飽海	47	41	41	34	163
合計	208	235	225	219	887

(回答企業数)

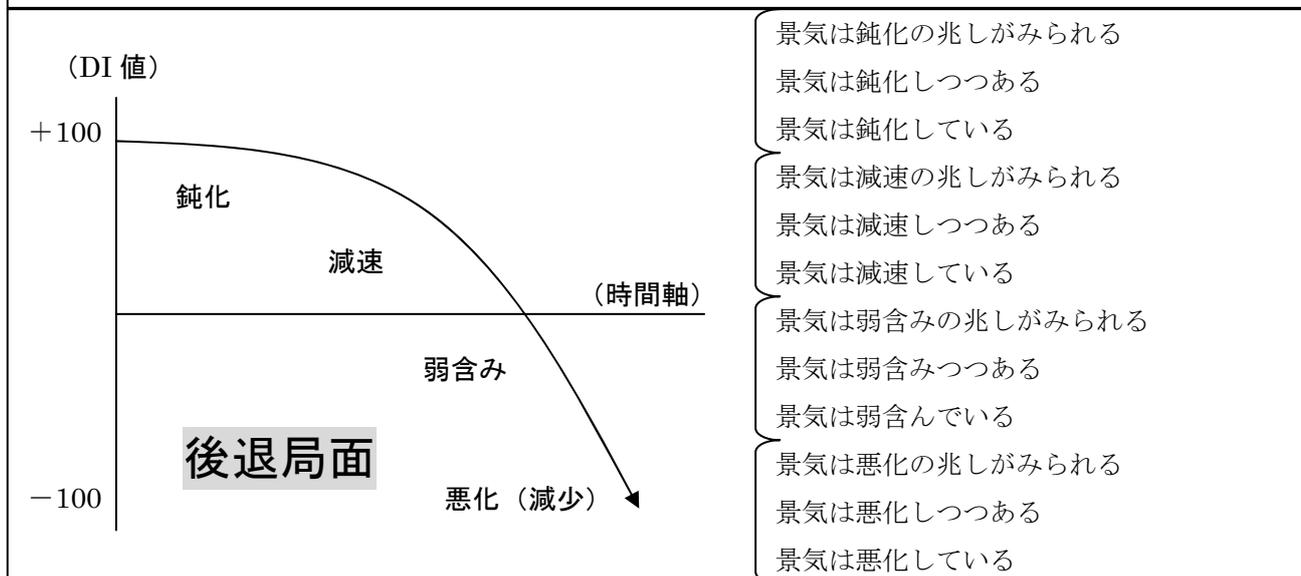
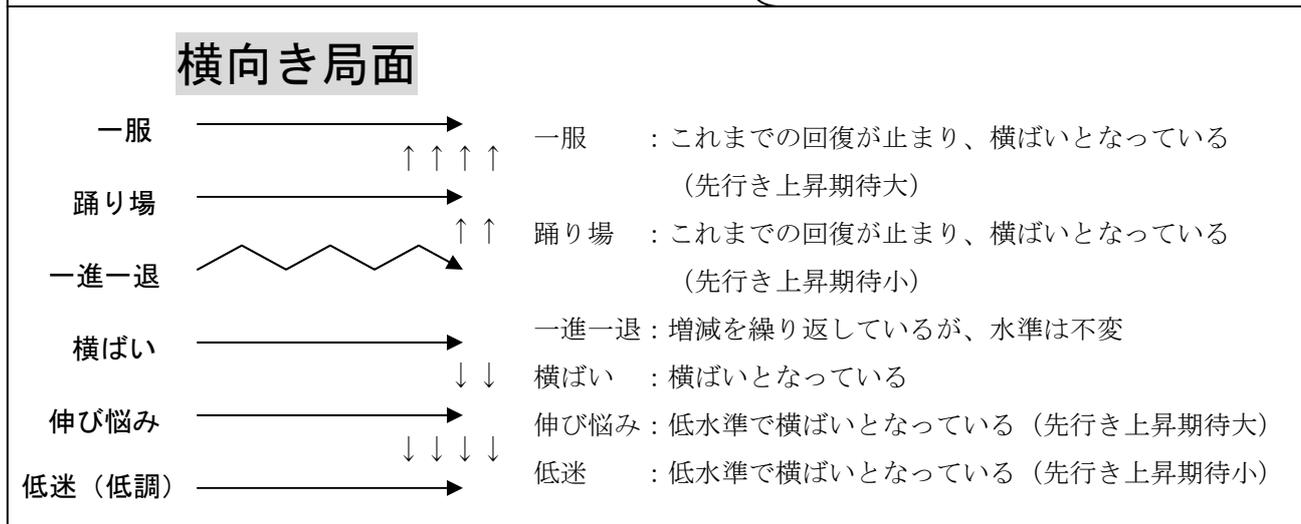
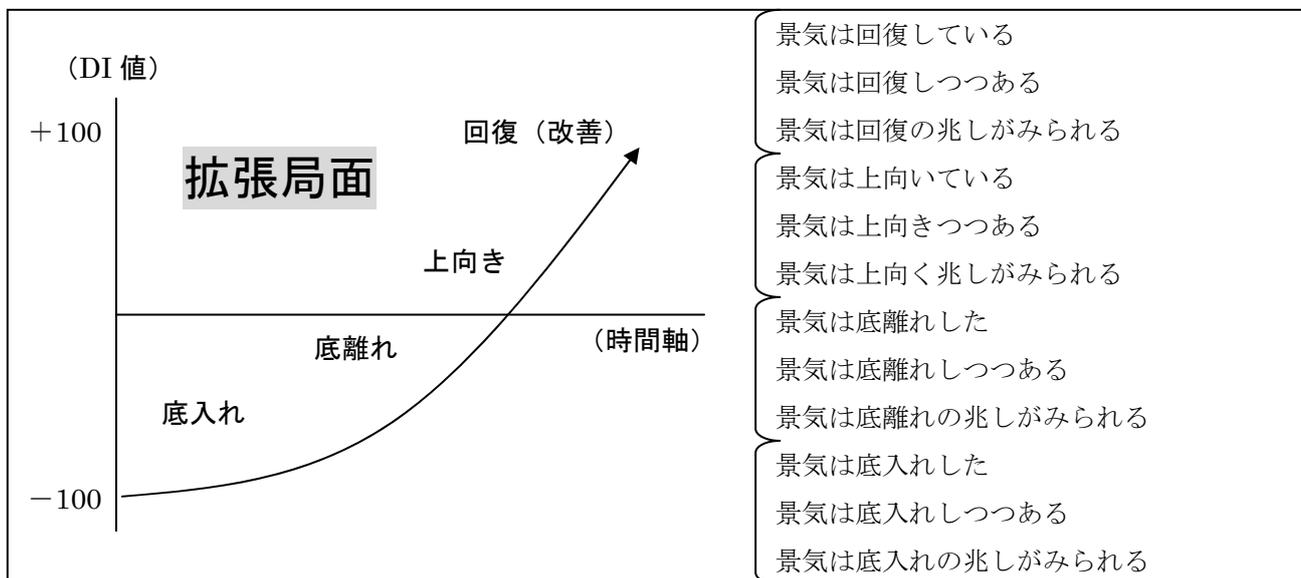
	建設業	製造業	卸・小売業	サービス業	合計
村山南部	21	28	39	42	130
村山北部	19	27	9	11	66
最上	17	9	7	10	43
置賜	17	29	17	13	76
庄内田川	21	23	22	20	86
庄内飽海	29	27	24	26	106
合計	124	143	118	122	507

(回答率)

	建設業	製造業	卸・小売業	サービス業	平均
村山南部	63.6	63.6	57.4	65.6	62.2
村山北部	63.3	58.7	39.1	39.3	52.0
最上	63.0	56.3	36.8	52.6	53.1
置賜	58.6	69.0	51.5	46.4	57.6
庄内田川	50.0	50.0	53.7	43.5	49.1
庄内飽海	61.7	65.9	58.5	76.5	65.0
平均	59.6	60.9	52.4	55.7	57.2

<参考資料Ⅱ：基調判断用語の凡例>

使用例：景気



## <参考資料Ⅲ：調査の概要>

### ● 調査の目的

県内に本社を置いて企業活動を営む法人企業を対象に、各社の業況の現状と今後の見通しに関する判断を調査し、県内の景気動向について把握するために実施した。

### ● 調査の方法

インターネットを利用したアンケート調査（一部FAXを利用）。

### ● 調査期間

アンケート：平成21年11月2日（月）～13日（金）

ヒアリング：平成21年12月11日（金）～18日（金）

### ● 調査対象企業

「参考資料Ⅰ」の通り。

### ● 調査時期ならびに結果公表のスケジュール

図表Ⅲ-1の通り。

図表Ⅲ-1 調査時期・結果公表のスケジュール

調査の対象 <sup>〔注1〕</sup>	調査時期	公表(速報版 <sup>〔注2〕</sup> )	公表(確報版)
前年10-12月期	2月	2月下旬	—
1-3月期	5月	5月下旬	6月
4-6月期	8月	8月下旬	—
7-9月期	11月	11月下旬	12月

〔注1〕 回答はすべて直近の四半期決算をベースに依頼している。調査の対象となった企業によっては決算期が異なる場合もあるが、レポートをまとめるにあたっては決算期を表3-1に掲載した「調査の対象」に統一している。

〔注2〕 「速報版」とは、アンケート調査の結果を単純集計したものを指し、ヒアリング調査や各種分析結果を含まない内容のこと。「確報版」とは、アンケート調査とヒアリング調査の結果を踏まえて、当社が独自に分析した結果を報告するものを指す。

● 地域区分

図表IV-1の通り。

図表IV-1 地域区分

地域名	対象となる市町村名
村山南部	山形市、上山市、山辺町、中山町
村山北部	寒河江市、村山市、天童市、東根市、尾花沢市、河北町、西川町、朝日町、大江町、大石田町
最上	新庄市、金山町、最上町、舟形町、真室川町、大蔵村、鮭川村、戸沢村
置賜	米沢市、長井市、南陽市、高畠町、川西町、小国町、白鷹町、飯豊町
庄内田川	鶴岡市、庄内町、三川町
庄内飽海	酒田市、遊佐町

● 調査の内容

アンケート調査は、各企業の業況判断について3肢択一方式を採用している。毎回必ず調査する「定例調査」と、調査時期にふさわしい経済トピックス等について調査する「特別調査」とを設けている。定例調査の項目は図表IV-2の通り。

図表IV-2 定例調査項目と回答の選択肢

項目	選択肢（択一方式）		
自社の業況（共通項目）	1. 良い	2. さほど変わらない	3. 悪い
業界の業況（共通項目）	1. 良い	2. さほど変わらない	3. 悪い
売上高（建設業を除く）	1. 増えた	2. さほど変わらない	3. 減った
完成工事高（建設業）	1. 増えた	2. さほど変わらない	3. 減った
営業利益（共通項目）	1. 増えた	2. さほど変わらない	3. 減った
人員や人手（共通項目）	1. 足りない	2. ちょうどよい	3. 余っている
資金繰り（共通項目）	1. 楽になった	2. さほど変わらない	3. 厳しい
原材料等の仕入価格（製造業のみ）	1. 下がった	2. さほど変わらない	3. 上がった
製（商）品の仕入価（卸・小売業のみ）	1. 下がった	2. さほど変わらない	3. 上がった
在庫状況（製造業）	1. 増えた	2. さほど増えていない	3. 減った
手持工事高（建設業）	1. 増えた	2. さほど変わらない	3. 減った

（注）各項目とも「前年同期比」、「前期比」、「来期の見通し」について、それぞれ3肢択一方式を採用している。

● 集計方法

各項目とも、現状判断、先行き見通しについてそれぞれDI値を算出する。DI値とは、Diffusion Index（ディフュージョン・インデックス）の略で、算出方法は次の通り。

例) 自社の業況DI値

$$= (\text{「1. 良い」と回答した企業の割合}) - (\text{「3. 悪い」と回答した企業の割合})$$

たとえば「自社の業況DI値」がプラスであれば、相対的に自社の業況が良いと判断した企業が多いことになる。また、業況の変化の方向（良くなっているか、悪くなっているか）についても分かる。

ちなみに、他のDI値についても同様に、選択肢「1. 」(表4「選択肢」欄をご参照のこと)を選んだ企業の割合から選択肢「3. 」を選んだ企業の割合を差し引いて算出する。

#### <お知らせ>

F S N会員専用ホームページ (<http://www.net.sfsi.co.jp/cgi-bin/fsn.cgi>) にアクセスすると、統計データの最新版をダウンロードすることができます。こちらも是非ご利用ください。なお、過去の調査レポートや統計データは当社ホームページ (<http://www.sfsi.co.jp/>) 「調査レポート」コーナーからダウンロードすることができます。

#### <お問い合わせ先>

株式会社荘銀総合研究所

研究開発グループ 熊本／梅木

〒990-0043 山形県山形市本町1-4-21 荘銀山形ビル8F

TEL : 023-626-9017

FAX : 023-626-9038

E-mail : [kenkyuu@sfsi.co.jp](mailto:kenkyuu@sfsi.co.jp)

URL : <http://www.sfsi.co.jp/>